賣弘所

参州小川
鳥屋次郎八

御免
蘭
WERKID SPECIFICA
たんきやくきうてういんの妙薬 元祖
根元 長崎 ……堂 製
ホルトス

小 百粒入	代銀一匁	ふよりの薬
中包 三百粒	代銀二匁	穀薬ほやうき
大 五百粒	代銀四匁	秘方ゐ薬
百粒	代銀八分	ゐ味ゐ上

○夫人としてたんやういんきやくきは此三病の内ありてハ医術の人々
甚く難義して身を不働ゐて酒ゐハ魚肉をとく飲食でゞきじ或ハ必労にいむ
をとしに故に喜けり必死ゐうも凡ゐ胸先ゐへ胸いくき或ハたんをやゆき
あらいんと煩ゐの甚く多しかるも病とたのおぞり医術ハ病をさとして医ト
病発るをぞ速に酒と医薬で好魚肉でまく食をる人ハホルトス人と
其年升へ酒ゐハ食後ニ弐三粒ゞてく服用されバ胸先をとし其病根ゐる
脳こゝ迄け賎二役ゞくし酒ゐるる者ひせん生涯無病壮健を元功能の大略とあたされ

▲三門たん▲ぜんそく▲而く▲ちうやを▲ちうぶ▲ちうまんひかん▲かんけ▲とどく
これのうやまひ▲かくせう▲ちうぶ▲寿▲ひ▲回ひたの或ハ▲こひつ
むら▲うてゝばさうり▲ふおんちのこちの▲きてうらかくうりとうちと
或ハむねさ▲さしこみむちう▲なり▲たんせきされ▲の▲さと▲むねやさ
ひものやけ▲むねうく▲むまつきてゐた▲ちくちの▲とゑたく▲とうくとれがれ
かんから▲うぢき▲ひるえたつゐたなどうえるゝ▲いかたく▲ものれ
せうべき▲かのひろたく▲きぶゝゐうてものよたいく▲あいの▲ゝ病▲
さとしのことでのあんからと▲たいべんひけつ▲ゐたに▲月かとこ▲みて
なり▲のぼせ▲ぢつう▲やまひたちを▲酒の毒をひる▲おうく▲あう▲
びやう余おゐれものちも速し▲つまむらどくどくるゝうゐ薬ゐあひでよし
右の病症ホルトスを用ひて治せぬものなしハ薬方稀代の霊薬之じくハ宅かと
三枚の能書これあるれ諸薬食物よしあしは其功能あひてよろしたのむべし

大阪本店 堺筋通長堀橋一丁南 大橋喜兵衛

○食あたり暑気あたり食らん此ゝ悪病に用て功あること神のごとし

九千四百